



Via Latina 22

2025 年 7 月 344 号

総本部よりのお知らせ－マリア会

内 容

USA 管区で初誓願式	1
ブラジル、バウルで福者シャミナードの新しい像の祝別式	3
総長評議員会の訪問日程	4
FMI と SM の総長評議員会、Via Latina 22 で集会	4
聖ガブリエル修道会とマリア会の総本部メンバー間の会合	5
注意喚起：「いのちの約束」について皆さんの共同体の考えを分かち合ってください	6
殉教者たちの希望	7
Via Latina 22 のテラスにて	9
マリアニスト家族として CEMAS の会報を分かち合う	10
奉獻生活のジュビリー：2025 年 10 月 8 日－12 日（ローマ）	10

USA 管区で初誓願式

Carlos Alexis Roman Altamirano 士（通称 Alex 士）と José Manuel Gutiérrez Manzo 士（通称 Pepe 士）が 2025 年 6 月 7 日、メキシコ、ケレタロのグアダルーペのヌエストラ・セニョーラ聖堂でマリア会の初誓願を宣立しました。

修練院長、Tim Eden 師が養成と識別の期間を終えた Alex 士と Pepe 士を誓願宣立に適う候補者として紹介しました。彼らの誓願は USA 管区長、Oscar Vasquez 師によって受け入れられました。ミサの祭儀は霊生部長の Tim Kenney 師の共同司式で執り行われました。教育局長、Dennis Bautista 士も出席しました。彼らの家族の多くのメンバー、友人たち、そしてメキシコとアメリカのケレタロとプエブラからマリアニスト修道者が誓願式とそれに続く祝賀会に列席しました。



Alex 士（中央左）と Pepe 士（中央右）
マリアニスト男女の会員と共に

Alex 士は 27 才、彼はメキシコ、バラクルス、コアツァコールコアで生まれました。彼はバラクルス大学で電気技術の学士号を取得しました。Alex 士は 2022 年メキシコのケレタロで彼の修練前期を始め、それからサンアントニオで志願者となり、そして 2023 年にオハイオ、デイトンの修練院に入りました。彼はメキシコ、プエブラのマリアニスト共同体で教師と学生として奉仕活動を始めます。



Alex 士と Pepe 士, Dennis Bautista 士と共に

Pepe 士は 30 才、彼はメキシコ、ミチョアカン・デ・オカンポ、タンガマンダピオで生まれました。彼は 2020 年メキシコのケレタロで修練前期を始め、テキサス、サンアントニオで志願者となり、2023 年 8 月オハイオ、デイトンの修練院に入りました。彼はメキシコ、プエブラのマリアニスト共同体で教師と学生として奉仕活動を始めます。

ブラジル、バウルで福者シャミナードの新しい像の祝別式

2025年4月8日、私たちの創立者、ギョーム・ヨゼフ・シャミナードの誕生日を記念するこの日に、また、マリアニスト修道者がブラジルに到着して50周年を記念する一環として、1つの彫像の除幕式がバウルのシャミナード・カレッジの校門で行われました。このシャミナード像はブラジル人の芸術家、João Monteiroによってカーボンファイバーで型が作られました。



その日、彼が言いました：芸術と宗教は常に手に手を取ってすすみます、なぜなら真の芸術家は、修道者と同様に、霊生を追い求めています。例えそれが修道会、或いは霊生学派に属する芸術家の聖なる芸術でないときでさえ、霊のビジョンをもつ素材を浸み込ませている作品だけが、芸術の名に値するのです。このビジョンがなければ、私たちは手作り品や装飾について語ることになるでしょう。
[…]

ギョーム・ヨゼフ・シャミナードは偉大な霊的、肉体的存在感を備えた人と思われていました、それゆえに、彼の威厳のある、平然とした姿勢、真直ぐでキリッとした姿勢から、この人は地に足をつけ、頭は天に向かって上げられていると私たちに思い起こさせます。

ブラジル人歴史家で芸術批評家である Jacob Klintowitz は、João Monteiro について次のように言っています：“彼の彫刻は記念碑的なものへの傾向があります。彼には公共空間に設置される芸術作品への召命があります。このことは彼の彫刻のもつ内的な釣り合いの調和によるものです。それはあたかもその芸術家がモデルを創り出すかのようであり、そのスケールは天空であるかのようです。その彫刻の形と大きさがどうであれ、大抵、私たちはその記念碑的なものに佇みます”。

この記念像の祝別の日に行われた彫刻家の説明の言葉を読むために、[ここ](#)をクリックしてください。

総長評議員会の訪問日程

- 具体的日程は多少変更があり得ます。
- スイスとカナダの地域共同体への訪問と、同様にマドレーヌへの定期訪問の日程は決まっていません。
- いくつかの行政単位への支援訪問が行われます；未定です。

年	月	行政単位	訪問種類	評議員
2024	11月～12月	ラテンアメリカ	支援訪問	AF, PR
2025	2月	インド	支援訪問	DB, PR
	2月	スイス	支援訪問	JB, AF
	2月	ラ・マドレーヌ	教会法上訪問	JB, AF
	4月～5月	コートジボアール	支援訪問	JB, AF
	5月	オーストリア・ドイツ	支援訪問	DB, PR
	10月	東アフリカ	教会法上訪問	全員
	11月～12月	イタリア	教会法上訪問	全員
2026	2月	トーゴ	教会法上訪問	全員
	4月	日本	支援訪問	JB, PR
	4月～5月	韓国	教会法上訪問	全員
	9月～10月	フランス	教会法上訪問	全員
	11月～12月	インド	教会法上訪問	全員
2027	1月—2月	コンゴ	教会法上訪問	2人
	1月～2月	コートジボアール	教会法上訪問	2人
	4月～5月	スペイン	教会法上訪問	全員
	9月～10月	ラテンアメリカ	教会法上訪問	全員
2028	3月～5月	U.S.A	教会法上訪問	全員
	10月	日本	教会法上訪問	全員
	11月～12月	メリバ	教会法上訪問	全員

FMI と SM の総長評議員会、Via Latina 22 で集会

2025年6月9日、（メール・アデルの誕生日と列福記念日の前晩に）FMI と SM の 2 つ

の総長評議員会が、第2回目となる年2回の会議のためローマの Via Latina 22 に集まりました。



対話、自由、傾聴の雰囲気の中、霊的対話の型式で、出席した2つの評議員会のメンバーは、2つの総長評議員会間の協力に関する基本的課題について考察し、またそれについてのアイデアを分かち合いました。特に次の内容です：

- 2つの評議員会間の協力に関して現状はどうでしょう？
- この協力の長所と短所は何でしょう？
- この協力において避けるべき落とし穴は何でしょう？
- なぜ、どの様に、またどの分野で、この協力を展開すべきですか？

この2つの評議員会間の協力は素晴らしいです； これらの話し合いがこの協力を更に強めるのに私たちの助けになると確信しましょう。

聖ガブリエル修道会（ガブリエリスト）とマリア会（マリアニスト）の 総本部メンバー間の会合



両修道会の総長評議員 マリア会総本部の聖堂にて

先のマリア会（マリアニスト）総会は、総長評議会に対して、“経験を分かち合うため他の修道会との協力を強化し、またより効果的に若者たちの声を聴く”よう要請しました。（「いのちの約束」、No 69）。聖ガブリエル修道会の総本部を招待したのは、このような背景においてです。この招待は受け入れられ、意見交換と友好の会議が 2025 年 6 月 14 日、土曜日に行われました。

この会議によって、2つの本部がお互いに知り合い、世界における自分たちの存在と宣教についての情報を分かち合えるようになりました。注目すべきは、聖ガブリエル修道会はモンフォルティアン・ファミリーに属しており、また彼らは、私たちのように主に教育に献身していることです。将来、別の会議が計画されています。

注意喚起：「いのちの約束」について皆さんの共同体の考えを分かち合ってください

3月にすべての共同体は、第36回総会の総会文書、「いのちの約束」の序文について考察するようにと要請する書簡第2号を受け取りました。そして、その考察から出てくる洞察やアイデアを分かち合うよう奨励していました。既に多くの思慮深い回答が寄せられています。これらの洞察やアイデアは共有した方向を定め、総会の呼びかけに関する共同体的理解を深めるのに役立っています。まだ回答をしていない共同体には、自分たちの考察を次のアドレスに寄せるよう要請します：<https://form.jotform.com/250825800333046>

前の書簡へのリンク：

[書簡第2号（2025年3月）](#) — [書簡第1号（2024年12月）](#)

全世界の行政単位と共同体が総会の考えをどのように実行に移しているかについて、垣間見てみましょう。



総会の文書はコートジボアール従属地区でよい結果を生んでいる

2025 年 4 月 25 日から 27 日にかけて、コートジボアール従属地区の修道者全員が集まり、総会の文書に関して勉強会を行いました。各共同体には総会文書の 1 つの章が割り当てられ、各共同体は自分たちの従属地区にとって考察の重要ポイントを強調し、話し合いと意見交換の進行役をしました。2 名の書記がこの勉強会で分かち合われたコメントと提案を記録しました。この 2 日で分かち合い、集められた洞察を基にして、従属地区評議員会は従属地区会議についての追加の勉強会を提案します。従属地区評議員会と修道者たちにおめでとう、と申し上げます！

殉教者たちの希望

2007 年 11 月、教皇ベネディクト 16 世は回勅『希望による救い』（*Spe Salvi*）を教会に公布しました。彼の後任者、教皇フランシスは勅書『希望は欺かない』（*Spes non confundit*）（2025 年 5 月）をもって私たちに 2025 年聖年を公布されました。

教皇ベネディクトは、“私たちが〈私たちの現在〉に直面することができる力によって、頂いた確かな希望”のもつ《救い》に希望するよう私たちに熱心に勧められました。それは教皇が“困難な”と形容した〈現在〉です。従って、これは対神徳の希望への教皇の勧めです、なぜなら、この希望は“私たちが確信することができる”目標へと私たちを導くからです。それによって“私たちは確信が得られます”。“この目標はあまりにも大きいので、旅の疲れを正当化するほどです”。17 年後、世界、政治、戦争、移民、若者、貧困、、、などにとって；教会にとって、状況は更に困難なものとなりました。教皇フランシスは、全世界にとっての希望：“あらゆる希望”と善への希望のしるしの下に、この聖年を定めました。教皇は言い切っています：“すべての人は希望を抱きます。明日がどうなるか分からないとはいえ、希望はよいものへの願望と期待として、一人ひとりの心の中に宿っています。けれども将来が予測できないことから、しばしば相反する思い抱くこともあります。信頼から恐れへ、平穏から落胆へ、確信から疑いへ。私たちはしばしば、失望した人と出会います。自分に幸福をもたらすものなど何もないかのように、懐疑的に、悲観的に将来を見る人たちです。聖年が、すべての人にとって、希望を取り戻す機会となりますように”。



殉教者は希望の証し人であり模範です；というのは、もし彼らがこの世の命にだけ希望を置いていたとすれば、彼らは死を軽視しなかったでしょうからです。彼らは殉教の生き方を撰びました、それは彼らがより良いもの、すなわち救いを希望していたからです。私たちの殉教者、Carlos Eraña 士、Fidel Fuidio 士、Jesús Hita 士は、暴力的で不当な殉教の死を受け入れ、計り知れない愛と善である方、キリストとおとめマリアへの証し人となったのです。

総本部の聖堂にある殉教者 Carlos Eraña、Jesús Hita、Fidel Fuidio を記念する額

希望は信仰によって生き永らえ、愛の働きで育ちます。Carlos 士の霊的特徴は、彼の信心深さと深い信仰の精神でした。終生誓願（1908 年 3 月 24 日）の申請の手紙に彼は次のように書いています：“神への奉仕、聖なる模範イエスへの愛、その聖なる母マリアへの愛の実践、私はこれらが私の全生涯の目標となることを望みます”。彼は素晴らしい修道士であり、また生徒たちを要理教育と、信心深さの実践：告解、聖体拝領、そして日曜日のミサへ与ることにおいて教育しようと努力していた立派な教師でした。彼はマリアと子供たちを愛していました。彼の中に自分たちの親のように自己犠牲に溢れた善良な修道者を見ていたので、子供たちも彼を愛しました。質素で謙遜、神の摂理に信頼していたので、彼は次のように書いています：“マリア様がお望みになるところにはどこにでも、私たちは皆、行く用意ができています”。

スペイン第 2 共和制（1931－1939）の宗教色ある学校への法的迫害に直面し、Carlos 士は次に告白しています：“私はこれから何が私たちに起こるか分かりません。これからの展望は非常に暗いものです”。“私たちはただ摂理に信頼するだけです、神は私たちを見守ってくださいさるでしょう”。彼は革命民兵によって逮捕されたとき、自分の死を予見しましたが、神は自分を見捨てることはないと確信していました：“全て神のお望みのままに”と彼は言いました。彼の殉教の時が来たとき（1936 年 9 月 18 日）、彼は自身を神に委ね、天の母に祈り、そして少しずつ彼の魂は平静になりました。彼はこの悲しく苦しい夜を祈りの中に過ごしました。

Fidel Fuidio 士は異なる個性を持っていました：彼は外交的で陽気でそして友好的な人でしたが、それほど思慮深くはなく、しかし自分が行う全てのことに高い関心と熱意を持って取り組む人でした（彼は考古学の博士号すら取得していました！）“すべては神のより大いなる栄光と私たちの母マリアの誉れのためです”、と彼は言っていました。また次のようにも言っていました：“私たちの創立者シャミナード師と天の母マリアが、信仰の精神で高揚されたこの濃密な人生のときの間、私に同伴し、私を支え、勇気づけてくださいました”。

第 2 共和制の創設の時（1931 年 4 月）、国中に公共的、政治的、社会的無秩序が次々と起こりました。これらの不安を誘うような出来事のさ中であって、Fidel 士は彼の樂觀的見方を失わず、次のように繰り返していました：“ところで、私たちは死ぬまで私たちの理想を守るために、*Maria Duce, Religioni et Patria*を私たちのモットーとして持っているのではないですか？”。彼は常にご自分の教会を守ると言う主の約束に大きな信頼を表明していました。一度、民兵に逮捕されるや、彼は神が彼に送られたものに従って、静かで、落ち着いていて、幸福な時間を



総本部の聖堂にある殉教者 Miguel Leibar, Joaquín Ochoa, Sabino Ayastuy と Florencio Arnaiz を記念する額

過ごしていました；それで、Fidel 士の中には、段々と人間的な支えの放棄が生まれ、神お一人のうちに自分自身を支えるようになりました。

Jesús Hita 士は神経質で、感情的で、内気な性格だったので、彼の心理状態はもっと複雑でした。このような性格のため、彼は若干の吃音で苦しみました。しかし彼は大変慈悲深く、真面目で、働き者で、信心深い人、誠実で人を信じる人、子供のように素直な人でした。彼は常に聖性という大きな目標を表明していました。

第2共和制の宣言の直後、社会的無秩序と政治的暗殺が勃発した時、Jesús 士は告白しました：“ひとたび状況がはっきりしたとき、私たちがどうなるか私は分かりません。[、、、] 私個人の倫理的な価値観や行動規範に対する様々な危険を私は恐れませんが、Jesús 士は自分の内的平静さを失うことなく、かえって増々祈りに専心し、自分の生徒たちの教育により一層の熱意をもって献身しました。彼は言っています：“神が望まれることは何であれ；たとえ私たちが殉教者になるとしても、すべてはより良いものです”。彼は殉教をマリアによって天に迎えられる報いとして受けることを望んでいました。彼が亡命者であった月、また隠れていた間の彼の祈りは次のように繰り返していました：“聖マリア、もし私たちが殉教者になることをあなたがお望みなら、私は完全に自分を捧げる準備ができています”。

Via Latina 22 のテラスにて

また会いましょう、David 士！



6月14日、David Bruner 士は総本部での彼の奉仕を終え、メリバ管区に戻りました。この機会に、2つの Via Latina 共同体がテラスでの祈りと夕食のひと時を分かち合いました。私たちは David 士に、彼がローマで過ごした7年間に、また常に思慮深く、また効率よく総長評議員会の任務を助けその仕事を全うしたことに対し感謝します。あなたのこれからの宣教につき、私たちの祈りを約束します。

Via Latina 22 のスタッフと共に



6月6日、Via Latina 22 のスタッフとの恒例の年末夕食会が行われました。これは、総本部で働いているスタッフの皆さん、および、Antonio Gascón 師がこの集いの前の短い祈りの中で言ったように、総長評議員会のメンバーや、総本部と国際神学校の共同体を、その任務を全うするよう日々支えている人々との食卓と会話を分かち合う機会でした。

皆さんにとって良い夏でありますよう！

マリアニスト家族として CEMAS の会報を分かち合う



CEMAS の調整役、ホセ・イグナシオ・エグレスシア士から送られた会報 *New Wine No12* 「マリアニスト家族として資源を分かち合います」を皆さんと分かち合います。

ニュースレターを読むのにリンクをクリックしてください：

[Newsletter](#)

奉獻生活のジュビリー：2025 年 10 月 8 日－12 日（ローマ）

Via Latina 22 の 343 号発行で、私たちは奉獻生活の記念の年について情報を公表しました。総本部での宿泊の登録の期限が 2025 年 8 月 3 日です、忘れないように気を付けてください。正式な website と登録：[Jubilee of Consecrated Life](#)

Via Latina 22 には使用可能な部屋の数に限られています、予約するには、総書記のホセ・イグナシオ・エグレスシア士に書いて申し込んでください：gensecsm@smcuria.it

最近の総本部通信

- 訃報：14 号
- 6 月 20 日：会報 *New Wine No12* がマリアニスト研究センター（CEMAS）の調整役ホセ・イグナシオ・エグレスシア士から CEMAS の所長、ゾーン会議議長、行政単位責任者、養成所責任者、WCMF メンバー宛てに 3 ヶ国語にて送付されました。

総本部日程

- 7 月 3 日－14 日：霊生局長パブロ・ランボー師と教育局長デニス・バウティスタ士がペルー、リマでラテンアメリカ地区と CLAMAR 会議に出席します。